



学校運営協議会 2月18日(火)

学校運営協議会で、参加者のみなさまから貴重なご意見をたくさんいただきました。今回は、「子ども・学校・家庭・地域が目指す姿を共有し、総がかりで子どもを育成するためには」をテーマに熟議をしていただきました。年2回の学校評価アンケートで子どもと保護者の評価が、大きく異なる項目がありました。読書、家庭学習、あいさつ、バランスのよい食事、生活リズム、メディアなどです。子どもたちは「頑張っている」と評価しましたが、保護者のみなさんは「もう少しできるのではないか」という評価でした。そのことをもとにしなが、「目指す姿の共有」「総がかりでの子どもの育成」についてご意見をいただきました。

平野小学校の子ども達の実態 ～なぜ、子どもと保護者の評価に差があるか？～

- 保護者の「こうしてほしい」という子どもへの期待感が高いのではないかと。
- 子どもと保護者の評価の基準や視点が違うのではないかと。
- 親の基準にだけあてはめて評価してはいけない。親はどうしても「何々しなければならぬ」という観点で子どもを見てしまう。
- 学習方法の変化があるのではないかと。
子どもが、タブレットを使って調べ学習をしていると遊んでいるように見えるのではないかと。
- 子どもは、学校での姿と家での姿が違うのではないかと。子どものオンとオフ。
- 親は結果だけで評価しがちなため、子どもが頑張っている過程を認めてあげる必要がある。
親子で一緒に頑張る姿勢が大事。例えば、親と子が一緒に本を読んでもと評価に差が出ないのではないかと。
- 親が本当に子どもの姿を見ているだろうか。(子どもに「やっているか?」と)聞くだけになっていないだろうか。
- 普段から家庭で子どもから学校の様子を聞いている。それをもとにアンケートに答えている。
土日は習い事があり、平日は宿題が多いと、なかなか読書はできないようす。
- 子どもを認めることが大切。認められることで子どもは、達成感を感じる。

2つのグループで熟議をしていただきました。



- 読書、食、メディアなどは、どの学校でも子どもと保護者の評価に差がでる。子どもが達成した具体的姿を家の人に伝えることや親が子どもを知ることが大切。
- 子どもが頑張っている写真などの資料を見ると親は安心する。
- 学校として、子どもの良さを家庭にもっと伝える必要がある。

総がかりで子どもを育成するために

- 総がかりの機運が平野にはある。見守り隊は、子どもの安心感にも繋がっている。
- 子どもには数値に出ない頑張りがある。目指す子どもの姿を共有する必要がある。地域との関わりから、人とのつながりやコミュニケーションが生まれる。
- 子どもたちが、公民館の行事に楽しみながら参加し、地域の人とふれあい、地域に親しみを持つことはとても大事。地域の行事を続けていきたい。
- 祭りが地域愛に結びついている。地元に残る根っこになっている。
- 子どもの数が減少傾向。平小獅子踊りのやり方を検討する必要がある。
5,6年生で行い、笛を5年生からすると、地域の祭りにも笛で参加できる。地域の祭りも盛り上がるのではないかな。
- 平野小学校はめぐまれている。学校、学童、児童センター、コミセンが隣接している。連携がしやすい。地域の様子を話し、運動会などの日程も学校運営協議会で話題にしてはどうか。
- 2月15日の土曜らんど(雪遊び)で子どもは大盛り上がりだった。土曜らんどは子どもを育成する上で貴重な体験活動を提供している。たくさんの役員の方々にもご協力いただいた。新型コロナウイルス禍前より参加人数が減っている。
- 子どもが、地域の行事に出る機会をつくる。地域で子ども達をいれたイベントを行った。
- 地区の行事で自己紹介を入れたことで、関係が築けた。
- 居場所をつくっていくことが大事。地域の一員として
- 新しく平野地区に来た方は、最初は不安があるのではないかな。子どもと一緒に地域行事に参加することで、「わからない」から「わかる」へ変わっていくのではないかな。

授業の様子も見ていただきました。



教育業務支援員の甲斐彩香が一身上の都合により退職しました。在職中は、大変お世話になり、ありがとうございました。